

静岡がんセンター病院事業経営見通し（平成 28～32 年度）に対する 平成 29 年度の自己評価

1 概要・経緯

- 平成 27 年 3 月 31 日、「公立病院改革の推進について」（総務省自治財政局通知）が示される。
- 平成 28 年度から平成 32 年度までを計画期間とした「静岡がんセンター病院事業経営見通し（静岡がんセンター病院改革プラン）」を、平成 29 年 3 月に策定した。
- 今回、平成 29 年度の事業について、次のように評価した。

2 静岡がんセンター病院事業経営見通しに対する平成 29 年度の評価

○ 計画、実績

（単位：百万円・税込）

年度		28 実績	29 計画	29 実績
収入	医業収益	25,519	26,188	26,269
	医業外収益	6,921	7,361	7,188
	経常収益(A)	32,440	33,549	33,457
支出	経常費用(B)	32,146	33,521	33,361
経常損益(C=A-B)		294	28	96
特別損益(D)		▲139	▲1	▲29
純損益(C+D)		155	27	67

○ 数値目標の実績・評価

年度		28 実績	29 計画	29 実績	達成度
経常収支比率		100.9%	100.1%	100.3%	◎
医業収支比率		82.6%	81.4%	81.9%	◎
職員給与比率		44.1%	44.4%	44.4%	○
病床利用率		91.6%	90.0%	90.8%	◎
患者診療 収益	入院	65,572 円	64,718 円	66,442 円	◎
	外来	40,334 円	41,174 円	41,888 円	◎

* 患者診療収益：患者1人1日当たりの診療収益

* 病床利用率：(在院患者(24時現在在院患者数)+退院患者数)÷稼働病床数×100

※達成度：◎＝計画以上、○＝概ね計画どおり、×＝計画以下

【平成 29 年度評価】

- 主に、業務の効率化による時間外縮減、次年度診療報酬改定への対応を進めるとともに、病床利用率、重症度、医療・看護必要度及び入院収益を目標に掲げ、経営努力を行った。病床利用率にあつては、引き続き、各診療科と病棟が連絡を密に取ること等による病床の効率的な運用に取り組むとともに、状況を常時、経営戦略会議等の会議で報告、進捗管理を行った。

- ・ 病床利用率、重症度、医療・看護必要度、一日一人当たりの入院収益いずれも目標値を達成した。結果、純損益67百万円の黒字となった。

3 今後の方向性

- ・ 病院事業の黒字の維持のため、適切な目標設定と進捗管理、その他の管理指標の分析等を行い、必要な対策と改善により、引き続き、効率的な運営に努める。
- ・ 静岡がんセンターは、医療圏唯一の高度先端医療の提供を行う特定機能病院、都道府県がん診療連携拠点病院として診療業務を行っており、静岡県在住者を中心とした患者さん等への診療密度の高い医療の提供が期待されていることから、引き続き、高度急性期機能、急性期機能の提供に努める。また、世界、日本のがん医療の現況を意識しながら、「がん医療のフロントランナー」としての活動を進めていく。